



みどりの丘

緑の『街』が見つめる医療



がん診療の最近の進歩のお話し

個別化医療とがん遺伝子解析検査

臨床腫瘍科

青木 琢也

はじめに

2 人に 1 人が癌になり、男性では 4 人に 1 人、女性では 6 人に 1 人が、癌によってその生涯を閉じます。癌は特別ではなく、だれもが向き合わなければならない病気です。そんな中、患者さんの個人レベルで最適な治療方法を分析・選択し、それを施すこと（個別化医療 プレジジョン・メディシン）の必要性が増しています。この言葉は、2015 年にアメリカ合衆国のオバマ大統領の演説で発表されました。個別化医療には、最先端の技術により細胞を遺伝子レベルで解析することが必要になります。

どうして癌細胞は発生するのでしょうか？

からだの細胞の遺伝子に異常な変化（変異）が起きて、細胞が無秩序に増えてしまう（癌化）ことが、癌細胞発生の主要な原因の一つになっています。そして癌細胞が増えて癌になるには、排除、平衡、逸脱という考え方が主流です。簡単にお話ししますと、タバコ等の発がん物質により体内では常に癌細胞が発生しています。からだの中の免疫は常に癌細胞を排除しています。ところが、癌細胞を完全に排除できない状態（平衡）となり、その後、癌細胞がからだの免疫機構を逃れる（逸脱）ことで癌という病気になります。

遺伝子の変化を調べて治療に役立てる試み

癌細胞の遺伝子異常を調べて、個別化医療に役立てようという試みが進行しています。遺伝子異常がわかると、それに対する特効薬（分子標的薬）があるかもしれません。分子標的薬と呼ばれる抗がん剤が、世界中で開発・研究されています。高価な薬剤ですが、日本では皆保険であることから適応があれば使用できます。当院では遺伝子異常の検索を行っています。スタッフ一同で、がん診療に取り組んでいます。お気軽にお問い合わせください。

マスク着用にご協力ください



「手指衛生の徹底を」

新型コロナウイルス感染
予防対策実施中！

